

—愛媛県八幡浜港—

100人の小学生が「一日海員学校」を体験

宇和島運輸株式会社・体験乗船

フェリーに乗船、愛媛県・八幡浜港～大分県・別府港を往復

8月22日、愛媛県八幡浜港で、本組合主催の体験乗船「1日海員学校」を開催し、愛媛県八幡浜市在住の小学校4年生から6年生までの児童100人が参加した。またこの日は、愛媛県立宇和島水産高等学校の教諭や生徒6人がスタッフとして参加した。この体験乗船は、宇和島運輸株式会社のフェリー「れいめい丸」と「あかつき丸」に乗船し、八幡浜港と大分県の別府港を往復。操舵室や機関室の見学のほか、船の勉強会やロープワーク教室などが行われた。

体験乗船「1日海員学校」の開校式は午前9時に始まり、平岡英彦中央執行委員から「船は私たちが生活するうえで重要な役割を担っている。今日一日、実際に船に乗り、普段立ち入ることのできない操舵室や機関室の見学など、船や船員について楽しく学んで、将来船員になりたいという人が出てくることを期待している」と主催者代表あいさつが述べられた後、体験乗船にご協力いただいた松岡正幸宇和島運輸株式会社代表取締役社長と大城一郎八幡浜市長のお二人から、あいさつが述べられた。続いて、来賓として本組合政治参与の菅森実愛媛県議会議員と山崎健吾四国運輸局宇和島海事事務所所長が紹介された。

◇「れいめい丸」に乗船

開校式が終わると全員が「れいめい丸」に乗船し、子どもたちは班に分かれ出港スタンバイ中の機関室を見学。乗組員から機器やエンジンの仕組みなどが説明された。大きな機関室に初めて入り、乗組員から説明を受けた子どもたちからは「エンジンの大きさや音の大きさにびっくりした」など子どもたちは初めて入る機関室に驚きを見せていた。

機関室見学が終わると「れいめい丸」は大分県の別府港へ向け出港した。航海中の船内では、「れいめい丸」の長嶋良樹船長からあいさつをいただいた後、操舵室見学や船内探検のほか、船や船員についての勉強会が行われた。

船と船員についての勉強会では、清家勉宇和島運輸株式会社職場委員と清水駿愛媛支部長が講師となり、船の役割や船員の仕事などについて、プロジェクターを使って説明が行われた。

◇大分県・別府「うみたまご」

別府港に到着すると大分マリンパレス水族館「うみたまご」に移動し、班ごとに施設内を見学した。大きな水槽の中を泳ぐさまざまな魚やイルカショーなどを楽しんだほか、見学途中には、海の生物の勉強会が行われ、水族館スタッフから魚の習性などについて説明あり、子どもたちは普段知ることのできなかったことを楽しく学んだ。

◇宇和島水産高等学校の生徒たちからロープワークを学ぶ

別府港からの復路は、愛媛県立宇和島水産高等学校の善原武士教諭から愛媛県立宇和島水産高等学校の紹介が行われた後、ロープワーク教室を行った。

ロープワーク教室では、愛媛県立宇和島水産高等学校の生徒が先生となり、児童に日常生活でも役に立つ本結びや巻き結び、もやい結びを教えた。最初は苦戦していた児童も、高校生の優しくていねいな教え方で、最後には全員が結び方をマスターしていた。

八幡浜港に到着し、多くの保護者が出迎える中、旅客ターミナル1階で、閉校式を行った。閉校式では、除補修中・四国地方支部長と八幡浜市立神山小学校の菊池貴洋教頭先生からあいさつが述べられ、1日海員学校は無事に終了した。

◇体験乗船の感想アンケート

体験乗船を終えた児童たちからは、今回の体験乗船をつうじてのさまざまな感想が寄せられた。▽ロープワーク教室で、いろいろな結び方を覚えることができて良かった▽ロープワーク教室で教えてもらった結び方を忘れないようにしたい▽操舵室でレーダーやコンパスなどいろいろな機械を見れてよかった▽機関室はとても暑くて大きな音がしていた▽船のエンジンやいろんな機械を見て、説明を聞いたことが良かった▽はじめて機関室に入れてよかった▽船の人たちがどれだけ大変な仕事をしているかがわかった▽海や船のことをたくさん知ることができてよかった▽水族館で魚のことをたくさん知ることができてよかった▽将来は船員になりたい—など。子どもたちにとって「一日海員学校」は夏休みの貴重な思い出となった。

